

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」 アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくん
の気持ちを考えよう。

【三の場面前半】本文掲示

がまくんは、ベッドで お昼ねをしていました。

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を書きこんでいきます。)

○「かえるくん、なにいつてんだよ。」

○「どうにかして、がまくんをおこさなきゃ。」

○「ひよつとして、だれかが、きみにお手紙を くれる
かもしれないだろう。」

かたつむりくんは、まだ やって来ません。

がまくん・・・あきらめている。

「いやだよ。」「そんなこと、あるものかい。」

かえるくん・・・元気付けたい。

【分かったこと・できたこと】

- ・ がまくんのことを一生けんめい元気づけるかえるくんは
- ・ とてもやさしいということが分かった。
- ・ くりかえし出てきている文しよは、読み方をかえて読むことが分かった。

【5 / 11時間目 指導略案】 使用するワークシート(三の場めん前半) 活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

○ 学級に掲示している学習計画で本時の学習内容を確認させる。

2 三の場面前半を読み、かえるくんとかたつむりくんの会話を確認する。(個人で↓全体で)

- 会話文の上に緑(かえる)と赤(がまくん)で○を付けながら確認させる。
- ※ 役割読みをさせながら、誰が言った言葉かを確認させます。児童が十分理解しているようであれば、誰が言った言葉か印を付けさせる作業は、必要ありません。

評価 誰の言った会話文かを理解し、場面の様子を想像しながら読んでいる。(ウー1)

3 登場人物の気持ち分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせる。

- 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。
- ※ 【個人】↓【少数人数】↓【全体】の流れは前時と同じです。
- ※ 繰り返し出てくる文章は、動作化などを通して比較をさせ、気持ちの高まりがあることに気付かせます。そして、読み方に変化をつけさせます。

・「がまくん。」

・がまくんは、まだからゆうびんうけを見ました。(まだからのぞきました。)

・かたつむりくんは、まだやってきません。

※ 人物の様子については、行動や会話から次のようにまとめます。

- ・ がまくん・・・相変わらず、落ち込んでいる。
- ・ かえるくん・・・早くがまくんを元気付けたい。

4 読み取ったことを基に、二の場面を音読する。

- 役割を決めて、それぞれの人物になりきって音読をさせる。
- ※ 前時に学習したこと(気持ちをこめて・動作化)を踏まえて音読することを確認します。
- ※ 人物の気持ちや表情を顔マーク(ハニ)を加えながら練習させます。

評価 二人の気持ちの違いを読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- 繰り返し出てきている言葉や文章は、気持ちの変化に合わせて読み方を変えて読むことや、役になりきって簡単な動作を入れながら読むと、場面の様子がよく分かることをワークシートで確認させる。
- 次時は、三の場面後半を読んでいくことを確認する。